

知的障害者が語る、「性」に関する経験やニーズ

○ 筑波大学大学院人間総合科学学術院 門下 祐子 (009958)

小澤 温 (筑波大学・000260)

キーワード：性の権利，性教育，知的障害者

1. 研究目的

「性の権利」は、他者の権利に十分配慮し、自らの性生活を満ちし、性的健康を享受するすべての人々の権利を擁護するものである<sup>1)</sup>。障害者は「性の権利」を行使する上で、社会・環境との間に多様な障壁や隘路があるために、他者の支援や介入、配慮、認識が必要となる<sup>2)</sup>。とりわけ知的障害者の周囲には、「本人の性交渉や生殖の自由を統制する規範」が存在するとの指摘<sup>3)</sup>や、知的障害特別支援学校高等部では、「性交」や「避妊」といった生殖に関する教育が十分でない中、男女交際ルールによって性行為が禁じられる傾向にある<sup>4)</sup>。加えて、知的障害児・者に対する性教育は教員や保護者らの視点が重視されており、本人不在で語られる現状にある<sup>5)</sup>。そこで本研究では、知的障害者がどのような性的ニーズを有しているのかを明らかにし、その上で彼らが安心して性的ニーズを表明できる環境のあり方を探ることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

(1)本人宛の依頼文書を用いて口頭での説明を行った上で、自由意思により同意書に基づく同意が得られる、(2)ある程度、言語的コミュニケーションが可能、(3)研究へ参加することにより心理的状态の悪化の恐れがない、以上 3 点に該当する者に調査を依頼し、本人が希望する場合は支援者や母親らが同席した(表 1)。対面による半構造化面接を 2021 年 11 月～2022 年 1 月に実施した。調査内容は、友人関係・恋愛関係・性(マスターベーション・キス・セックス・結婚・妊娠・出産・子育て)についての知識や疑問、性について悩んだ時の相談先、学校時代に受けたかった授業内容、今後必要とする支援等であった。

まず、対象者の語りから性的ニーズを明らかにした上で、ディスコース分析を行った<sup>6)</sup>。ディスコース分析は対象者の声が生み出される背景—インタビュアーが対象者に与える影響や同席する支援者との関わりも含めた文脈—に注目し分析するものである。その点で、プライベートな内容を問う本研究に適した分析方法と言える。具体的には、インタビューで得られた録音データまたは書面より逐語録を作成し、検討する箇所を調査者が決定した上で、質的研究および本研究課題に精通した研究者 2 名、社会言語学の研究者 1 名とそれぞれデータ・セッションを行い、出された意見を取捨選択し、〈抜粋〉したデータについて論じる。

表 1 調査対象者の概要

現在の所属	性別	年齢	知的障害程度	併せ有する障害	インタビュー参与者
① B 型(直後に一般就労)	男性	30 代	軽度	自閉症・ADHD	調査者・対象者
② 特例子会社	男性	30 代	軽度	なし	調査者・対象者
③ 病院勤務(看護助手)	男性	20 代	軽度	なし	調査者・対象者
④ B 型事業所	男性	20 代	軽度	なし	調査者・支援者・対象者
⑤ B 型事業所	女性	40 代	中度	なし	調査者・母親・対象者
⑥ 保育園勤務(保育士)	女性	20 代	軽度	なし	調査者・関係者・対象者⑥⑦
⑦ 主婦(元飲食店勤務)	女性	20 代	軽度	なし	調査者・関係者・対象者⑥⑦

### 3. 倫理的配慮

本研究は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て実施した(課題番号第東2021-63号)。対象者には個人情報保護、研究発表等の説明を行い、同意書のサインをもって同意を得た。

### 4. 研究結果

表2 対象者②のインタビュー<抜粋>

イ:	じゃあ、えつとあと((質問は))二つで終わります。えつと、学校時代にじゃあ性について、こう、どんな授業があればよかったなあって思います？
②:	学校時代ですか？あのですね、ビデオとかもちろん、あのコンドームの使い方を教えてくれてたんですけど、えつともうちょっとです。く、くわしく、あーの、どのようなことを、えーあー例えば例えば相手の気持ちをあの考えて、えーつていう風の授業、ところも聞きたかったんですけど、で、これやっぱこうすると妊娠、セックスすると妊娠するよって、気をつけてって。で、えつとそれだけで、え？でも一番大事なところが抜けてるっていう。えつとそこを踏まえて、で、相手の気持ちをわかって、や、や、やってねって、そこだったら、わかった、わかったかもしれないんですけど、そこは、語られませんでしたね、一切カットで。
イ:	何か要はもう、生物学的などうか、まあこういう風にしたら子どもできますよ、じゃあコンドームはこうやってつけましょう、で肝心の、じゃあ同意を取るとか、お互いの気持ちを思いやるとかがなかったってこと？
②:	うん、そうです。全部やり方で。あのもう避妊とかまでやって。で、ピル、ピルを飲めば大丈夫ですっていう、もうそれだけで、あーうん。
註:	イ：インタビュー、②：対象者②を示す。語りの中の二重括弧は筆者が補足。

インタビューの総時間は、7時間51分7秒(①：38分58秒、②：68分13秒、③：100分35秒、④：68分13秒、⑤：64分42秒、⑥：65分32秒、⑦：65分32秒)であった。本稿では、特に「性交」や「避妊」に関する語りや、異性との関わりについての特徴的な語りを一部抜粋して示す(表2)。対象者②は遠距離恋愛中の交際相手といずれは

セックスをしたいとの思いがあり、学校の授業で「性交」や「避妊」の知識は得たものの、相手の気持ちを考えるという「一番大事なところが抜けてる」ので知りたいと語る。対象者⑥も学校の性教育で知識は得たが、「生かすところがない」と出会いの乏しさを述べた。対象者①は出会いを求め、マッチングアプリに興味を持っているが「ちょっと危なそうだなと思って手を出してない」という。一方、対象者④は「性犯罪の加害者に見られないように」という指導や社会的なメッセージを受け続けた結果、「女性に触る＝わいせつ罪に問われる」と思い込んでおり、職場で女性を前にすると時にパニックを起こすなど、本人に不利益が生じていた。

### 5. 考察

本研究の結果、知的障害者は多様なニーズを持っており、聞き手の「共感的」な相槌や、彼らの意見を「肯定的」に受け止め、規範を押し付けることのない「ノンジャッジメンタル」な態度がニーズの表明に繋がっていた。今回、対象者③⑦をはじめポジティブな友人関係の話題があった者は明確に性的ニーズを表明する傾向にあり、基盤となる知識や情報を持っていた。故に、対象者④⑤など「分からない」と述べる者の背景に支援者や母親が同席している点も踏まえた上で、人間関係の乏しさや性知識/経験の不足、周囲の保護的・抑圧的な関わり等を想定する視点も重要である。知的障害者は「性の権利」の主体者つまりは性的ニーズを持つ存在として改めて認識されるべきである。今後はセックスについて「NO」と言わせる教育やリスク予防教育ではなく、学校教育および成人期においても生殖や性的同意等の学びを享受し、インクルーシブな環境下での「リアルな経験」や「ポジティブな人間関係の形成」を重視する必要がある。

#### 引用・参考文献

- 1)WHO(2010) Sexual and Reproductive Health and Research (SRH)<<https://www.who.int/teams/sexual-and-reproductive-health-and-research/key-areas-of-work/sexual-health/defining-sexual-health>>
- 2)旭洋一郎(2008)リハ専門職が知っておきたい障害者のセクシュアリティ第1回障害がある人々のセクシュアリティとリハビリテーション-序論として、地域リハビリテーション, 3(7), 661-663.
- 3)鈴木良(2013)知的障害者の地域移行における性の統制過程に関わる一考察, 京都女子大学生活福祉学科紀要, 9, 9-18.
- 4)門下祐子(2022)知的障害特別支援学校高等学校における性教育の実施状況と男女交際ルールの存在-全国実態調査にもとづいて-, 福祉社会開発研究, 14, 5-17.
- 5)門下祐子(2021)知的障害児・者が語る, セクシュアリティに関する経験とニーズ-海外の研究動向にもとづいて-, 関係性の教育学, 20(1), 41-52.
- 6)鈴木聡志・大橋靖史・能智正博(2015)ディスコースの心理学-質的研究の新たな可能性のために, ミネルヴァ書房.